

令和6年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立貴志川高等学校

校長名：林 和哉

目指す学校像・育てたい生徒像

「人間として生きる力を身につけて、地域と社会に役立つ人材を育てる」

- ・校訓「以和為貴」の精神のもと、自他を大切に、他者を思いやるやさしい心を持った生徒
- ・自己肯定感が高く、自らの手で未来を切り拓く力を持った生徒
- ・状況を適切に判断し、主体的に行動する力を持った生徒
- ・地域の発展のため意欲的に学習に取り組み、持続可能な社会に向け、新たな発想や的確な行動を生み出す力を持った生徒
- ・年齢や専門性、価値観が異なる他者と協働し課題解決が図れる力を持った生徒

学校評価の公表方法

本校ホームページに掲載

現状・進捗度	A	十分に達成している。(80%以上)
	B	概ね達成している。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（2月19日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	① 基本的生活習慣の確立 ② SNSの適切な使用 ③ 交通安全・不審者対策・災害対策・感染症対策等の危機管理意識の向上	C	凡事を徹底し、規範意識の育成を図る。	遅刻者・欠席者、授業不参加生徒の減少。	B	定期的な身だしなみ指導で、改善点を認め粘り強く個別指導した。	さらに生徒の変化を的確に掴み、早期に的確なアセスメントから法規対応を行っていきたい。また、緊急時や災害発生時の安全対策についても、さらに学校全体の意識を高めて実効性のあるものとするように取り組む。
			正しいSNS等の使用について指導の徹底を図り、問題行動の未然防止に努める	SNSでの問題行動、生徒間トラブルの減少。	B	アンテナ高く生徒の様子や変化を観察、生徒情報を共有しながら問題行動の未然防止に努めている。	
			交通安全指導、防災対策、感染症の拡大防止等の徹底を図る	交通事故、校内での事故等の減少。	B	高校生防災スクール等の体験や各種講演会を積極的に開催した。	
2	① 授業規律の確立 ② 「学び直し」「特別支援教育」の視点を持った授業展開と基礎学力の定着 ③ 進路意識の高揚	C	「ベル着」を徹底、課題を減らし、授業規律の確立を図る。	「ベル着」の定着。授業課題の減少。	B	ベル着の定着、課題の減少に取り組むことができた。	基礎学力に課題を持つ生徒も多いため、さらに「学び直し」に力を入れ、高校範囲の学習にスムーズに移行できるように取り組む。また全校書取の継続やQ-U、基礎力診断テストの実施など、基礎学力の向上から進路決定につながるよう地道に指導する。
			1学期は、国数英で「学び直し」に特化する。またICT等、全教科で授業改善を図る。	年2回実施の「到達度テスト」結果での基礎学力の上昇。	B	学び直しに力を入れ、スタディサプリ、到達度テストによる基礎学力向上に取めた。	
			キャリア教育の充実と確かな職業観・就職観の涵養及び就職・進学指導の充実を図る	進路意識の向上。進路未決定者の減少。	B	学校幹旋就職内定率約95%と、県内4年生大学合格10名、進路未決定者の減少。	
3	① 生徒の実態把握(アセスメント)力の向上 ② SCやSSW、外部機関や保護者との連携 ③ 特別支援教育の視点を活かした特色ある学校づくり	C	生徒情報共有会を定期的に開催し、正確に生徒をアセスメントするよう努める。	生徒情報共有会の開催。中学校訪問の実施。ケース会議の開催。	B	生徒指導部・教育相談・各担任が横の連携を強め、個々に応じた指導に努めた。	本校は個々に応じた指導・支援を大切に、生徒一人一人に寄り添いながら学校生活を支援している。社会に出る前の学習保障を図り、コミュニケーション力を高め、問題行動の未然防止、積極的生徒指導に努めながら、生徒の自己肯定感を高めていきたい。
			SC、SSW、外部機関との連携、教育相談やケース会議等で課題を抱える生徒を支援する。	個々の生徒に応じたきめ細かい指導が図れているか。	B	教育相談やSC・SSWと連携し正確なアセスメントを実施できた。	
			WGを中心に、生徒の実態や地域のニーズに応える教育システムの構築を進める。	個々の生徒の良さを伸ばす教育課程となっているか。教職員が自分事として学校改革に取り組んでいるか。	B	課題を探究する活動から、発表する力を養うことを目標に「課題探究」を設定し、実施に向けて準備した。	

学校関係者評価（2月4日実施）

(1) 令和6年度総括について

- ・学校の現状報告について、生徒数の減少や部活動生徒の減少がこの数年で急速に進んでいることの影響が大きい。また生徒の学力の幅も広く、学習歴や入学動機、家庭環境や生活状況も様々であることから、「学び直し」の必要性が高まってきている。今年度も個々に応じた指導・支援を多様な事象に寄り添って積み重ねてきた結果として、転学者や退学者が昨年より少なかった。
- ・学校評価票（生徒・外部・教員）集計結果について、昨年度との比較検証をした結果を受けて、改善が必要な点から各教員で意識しながら具体的に行動することが必要である。本校の特色や魅力について、生徒・外部・教員ともに数値が低くなっており、地域との関わりや連携を軸に模索していくことが必要である。
- ・今年度も「紀の川市 花いっぱい運動」「読みかたりボランティア」「高校生防災スクール」「エコスクール活動」「平池イルミネーション」「西山口駅ウォールアート」など、多くの交流・体験・活動をすることができた。さらに地域との連携を推進し、広報活動も広げていきたい。
- ・貴志川中学校との交流も教員間で深まりつつあるので、さらに継続しながら共同で行事等を行っていききたい。

(2) 令和7年度に向けて

- ・今後の貴志川高校の特色・在り方について、さらに「学び直し」に力を入れ、探究活動の科目として「課題探究」を設置し、座学以外の体験型の探究活動に期待したい。そのためにはテーマや目的を明確にするとともに生徒のモチベーションを上げ、貴志川中学校をはじめとする地域との連携を図ってほしい。
- ・部活動を活性化させるための取り組みが必要であるが、なかなか難しい面もある。
- ・今年度の文化祭・体育祭はほぼ例年通りの形で実施することができ、PTAや同窓会からも出店を続けることができた。さらに協力体制を継続していく必要がある。